



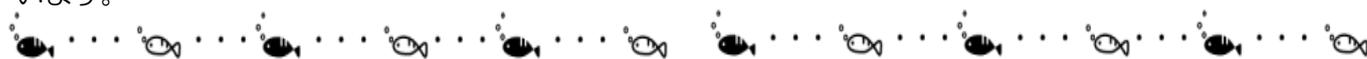
めだか論語だより

令和5年5月31日

賀茂保育園

新年度が始まって、早くも2ヶ月が経ちました。進級して新しい環境にドキドキしていたのが、楽しいことを見つけてはワクワクしている子ども達。毎日、たくさんの笑顔と元気いっぱいの笑い声が園舎に園庭へと響き渡っています。

さて今年度も3歳以上児では、磯江公博先生にお世話になり、月に1回めだか論語教室を行っています。磯江先生が来られるのは、月に1回ですが、帰りの会では、クラスごとに月に3つの章句の論語を素読しています。



論語とは・・・

孔子先生と弟子たちの問答を書き残した書の事で、「子曰く(しのたまわく)→孔子先生がおっしゃるには～」で文章が始まるのが特徴です。

意味はまだわからなくても、繰り返し読んでいくうちに、だんだんとその言葉のすばらしさに、引き付けられていったものです。

皆も1つでも多くの論語を頑張って覚えてほしいと思います。

めだか論語教室では、さくら組の代表の友達がリードし、進めています。磯江先生と一緒にその月の論語と次月の論語を素読します。



子ども達が一番楽しみにしているのが、磯江先生手作りの論語の紙芝居を見ること!! 論語の意味を分かりやすく紙芝居で伝えます。



コロナが終わって

園児当番さんが前に出て、論語の約束「姿勢を正して、大きな声で、きちんと挨拶」から始まる賀茂保育園の論語教室も13年目となりました。最初の卒園児はもう高校3年生です。担任の保育士さんがひと月に3つの章句を少しずつ園児に教えます。そして、月に一度の訪問で一緒に素読(声を出して論語を読む)を楽しみます。

論語に「徳は孤ならず、必ず隣あり」という章句があります。思いやりの気持ちを忘れずに、正しいことをきちんとやり通すには、時に勇気がいります。ちょっとズルをしたいとか、サボりたいという気持ちは誰にもあります。そんな気持ちに打ち勝ち、正しいことをやり通そうとすると、孤独になりがちです。大人でも子どもでも、仲間外れになるのは誰でも嫌です。けれど、どんな時も、思いやりの気持ちを持っている人は、決して一人ぼっちにはならない。きっとあなたと同じような優しい気持ちを持った友達が現れて、あなたのことを理解し、助けの手を差し伸べてくれます。私はこの章句が気に入っています。

毎月一回の論語教室での素読は、意味や内容を考えずに声を出して読むことです。意味はわからなくても繰り返し声を出して読んでいくうちに、漢文の美しいリズムが心に響き体の奥に蓄積されてきます。成長し、やがて意味が分かり理解が深まる時が来ます。正しい言葉は思考力や国語力の充実とともに、豊かな感性も育ててくれます。保育士さんの毎日の素読への取り組みが、心身共に充実した子ども達の成長の源となることを願っています。新しく、ちゅうりっぷ組の子ども達が加わって、コロナ後の元気な賀茂保育園の論語教室が始まりました。

論語指導者 磯江 公博